

## ごみの排出が困難な世帯の戸別収集を開始します

- 問合せ：ごみの収集運搬に関すること — 生活環境課 (Tel) 69-2145  
 利用申請に関すること — 長寿福祉課 (Tel) 69-2164  
 障がい福祉課 (Tel) 69-2161

ごみを集積所まで排出することが困難な高齢者又は障がい者の世帯を対象に、自宅の玄関先に出されたごみを戸別に収集し、日常生活における負担の軽減を図るとともに、ごみの排出状況等により見守りを行います。



### サービス概要

- 対象世帯は指定された日時までに、玄関先等に設置したふた付きのごみ箱にごみを入れてください。収集運搬業者が戸別に回収します。
- 燃えるごみは燃えるごみの指定袋に、資源ごみ(燃えるごみ以外のごみ)は任意の袋にまとめて入れてください。
- 収集は燃えるごみは週1回、資源ごみは月1回の回収となります。
- ごみが出されていない場合は、インターホン等により声掛けを行います。

### 対象世帯

- ごみを集積所や衛生センターなどへ運ぶことが困難な世帯**であって、下記に該当する世帯またはそれに準じる世帯を対象とします。
- 要介護認定を受けている65歳以上の方または身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方のみで構成されている世帯
  - 介護保険サービスを利用している世帯、または障害福祉サービスを利用し、家事援助を受けている世帯
- ※該当するか判断に迷われる場合はご相談ください。

## ★知ることから つながる輪★ ~7月は“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間です~

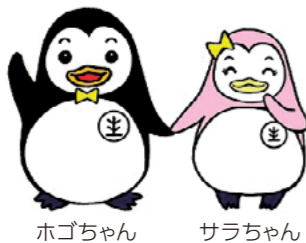
- 問合せ：第72回“社会を明るくする運動”甲賀市推進委員会(地域共生社会推進課 福祉総務係)  
 (Tel) 69-2157 (Fax) 63-4085

犯罪や非行のない地域社会をつくるためには厳しい罰だけではなく、立ち直ろうとする人を支えるチカラも大切です。誰一人取り残さないまちづくりの実現に向け、私たち一人ひとりに何ができるかを考え、参加できるきっかけをつくるため、全国的に社会を明るくする運動が7月に展開されます。

### 理解を深め見守る

罪を償って立ち直ろうとしている人たちが、必要な支援を受けられず、再び犯罪や非行を重ねてしまうことのないようご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

更生保護のマスコットキャラクター  
更生ペンギン



ホゴちゃん サラちゃん

### SNSをフォローしてみる

法務省のツイッターやインスタグラム等で、立ち直り支援に関する様々な発信を行っていますので、ぜひチェックしてみてください。

- 更生保護(※)について、もっと知りたい方は… [法務省 更生保護](#) [検索](#)
- お問い合わせはお近くの保護観察所まで [保護観察所](#) [検索](#)
- 更生保護ボランティアについては… [更生保護ネットワーク](#) [検索](#)

※犯罪をした人または、非行のあった少年が社会の中で適切に暮らせるよう、再犯を防ぎ非行をなくし自立できるよう助けること。



### ①食育の推進



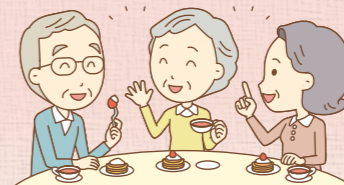
### ②健康づくりに関する啓発



### ③運動の推進

# 私達の健康は私達の手で

# 健康寿命を延ばそう!



### ④心身の健康づくり



### ⑤健(検)診の受診啓発

健康推進員と一緒に健康寿命を延ばす5つのことを実践しましょう

長期に及ぶコロナ禍で健康への関心が高まっています。健康増進のために地域で活動される市の健康推進員の活動をご紹介します。



ふれあい・ゆるスポフェスティバルへの参加(水口体育館)



食生活部の学習会



多くの方が参加された運動教室での活動紹介ブース

健康推進員はさまざまな活動をしています



### 私達の健康は私達の手で

私たち健康推進員と一緒に健康寿命を延ばすための上記に掲げた5つのことを実践し、心も体も健康な毎日を送りましょう。

健康への関心が高まった今だからこそ、私たち地域の健康推進員の活動が最も力を発揮する時ではないかと感じています。

健康推進員としてさまざまな情報を集めたり、経験を積んでいくことはもちろんですが、集めた情報を地域の方々に伝えていくことで、みんなが食・心・体のことを考え、健康になつていただくことが私たちの役割だと思っています。

健康への関心が高まった今だからこそ、私たち地域の健康推進員の活動が最も力を発揮する時ではないかと感じています。



- 問合せ：すこやか支援課 健康増進係 (Tel) 69-2168 (Fax) 63-4085

### 皆さんの健康のサポート役

昨年からは新たにスポーツ推進委員や防災士の方々と連携するなど活動範囲が少しずつ広がったと思います。これまでの地域でのサロンや運動教室に加え、災害時での健康を考えた備蓄食品を準備するなど、新たな視点で今後もネットワークをより広げていきたいと考えています。